

令和2年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

○年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R2	R3	R4		
北海道	上川町	上川町持続可能森林活用協	●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である吉田 俊也から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

北海道大学教授 吉田 俊也

【意見聴取の概要】

これまで有効な活用が行われてこなかった天然林資源について、事業計画に基づき活用される環境づくりが適正に行われており、今後の取組としても期待が持てる。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	上川町持続可能森林活用協議会	事業開始年度	目標年度	事業実施期間(令和2年度)
2. 取組振興山村名	上川町持続可能森林活用協議会、上川村	令和2年度	令和4年度	令和2年6月2日～令和3年3月31日
3. 事業費(うち国費)	6,241,193円(うち国費 6,241,000円)			
4. 第三者氏名	北海道大学教授 吉田 俊也			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント) 本取組の根本的趣旨は、仕事・収入が永続的に行えるような環境の整備である。今回特に一般的に木材市況では困難とされる天然林の中小径木を中心に製品化開発を当協議会は行ってきた。結果、流通や供給安定性、歩留まり等には課題があるが、製品までつなぐことができたことは評価ができる。		
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象	
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント) 広葉樹資源を扱う上で、特に小中径木に関しては価格がつかず、事業の採算が取れない為適正な森林管理が進まないということが課題であった。新規性の高い地上型レーザーを用いた林分調査やそのデータを活用したトレーサビリティシステム等を用いることで、多少とも材価の向上を目指す取組に対し一定の評価ができる。		
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象	
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント) 令和2年の計画目標は、地域資源を活用した商品開発1点となっている。今回協議会からの報告では3点の商品開発完了となっているため、優良であると評価ができる。		
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象	
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント) 初年度の取組ということもあり、各構成員についての具体的な役割イメージの構築に少々時間が必要ではあった。しかし結果として、町内での商品開発販売につなげる等、取組体制の強化がなされていると評価ができ今後の取組にも期待が持てる。		
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)	
④ その他				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

学識経験者等第三者について

上川町持続可能森林活用協議会

<p>1. 第三者の氏名、住所</p> <p>① 氏名： 吉田 俊也</p> <p>② 住所： 北海道名寄市西4条南8-6-2-101</p>	<p>3. 第三者の経歴</p> <p>1989 新潟大学農学部林学科 卒業</p> <p>1989 神奈川県庁 技師</p> <p>1995 新潟大学大学院農学研究科修士課程 修了</p> <p>1998 新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了</p> <p>1998 京大大学生態学研究センター COE研究員</p> <p>1999 北海道大学農学部附属演習林 助手</p> <p>2002 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 助手</p> <p>2007 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 助教</p> <p>2009 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授</p> <p>2012 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授</p> <p>現在に至る</p>
<p>2. 第三者に選定した理由</p> <p>現在、上川町は国立大学法人 北海道大学北方圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部との連携協定に基づき、天然林広葉樹資源の科学的知見に基づいた管理と人材育成を行っている。本協定に基づき吉田氏より日頃より指導を頂いており、同氏においては北海道における広葉樹資源活用において第1線で取組が行われている。従って本取組内容の評価に関し適任であると考え。</p>	

別紙2

(任意評価様式第3号)

令和2年度	事業開始 1年目	北海道上川郡上川町	上川町持続可能森林活用協議会
-------	-------------	-----------	----------------

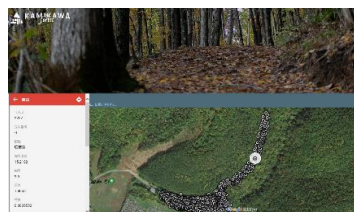
農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

①トレーサビリティにつながる資源調査、及びHP立ち上げを行った



資源調査



HP立ちあげ



木材搬出

製材を行い、



製材品



製品化

○今後の事業構想

- ・トレーサビリティに関するHPコンテンツの充実、製品化拡大、山林を利用したツアー商品の開発

商品開発(3点)



カードケース



積木



コマ

別紙2

(任意評価様式第4号)

令和2年度	事業開始 1年目	北海道上川郡上川町	上川町持続可能森林活用協議会
-------	-------------	-----------	----------------

山の恵みマッチング2020への参加実績	1：商品登録のみ	2：商談会参加	3：展示会参加
---------------------	----------	---------	---------

- 1：山の恵みマッチングWEBサイトへの商品登録のみ実施した
- 2：第1回商談会（R2.10.30、11.4）又は第2回商談会（R2.12.4）に参加した
- 3：東京ビッグサイトでの展示・商談会（R3.2.3～2.5）に参加した

○対象商品、参加状況等

商品開発が終了しておらず、登録可能商品がなかったため、参加せず。

○得られた課題や商談の成約状況等（成約や共同開発など販路拡大に繋がった場合は、可能な範囲で具体的・定量的に成果を記載すること）

○（参加後の）取組への反映・フィードバック状況、今後の取組方針等